宮柊二記念館だより

2013.4.30
第 39 号
発行　宮柊二記念館
TEL･FAX
025－794－3800

コスモス創刊60周年

宮柊二の業績を想う

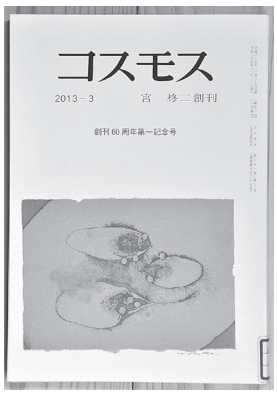
昭和二十八年三月に創刊された「コスモス」が今年六〇周年を迎えました。宮柊二が全身全霊をあげて取り組んだ「コスモス」。その業績は現在の歌壇に大きな影響を及ぼしています。

当館でも短歌の普及に、少しでも貢献できればと、全国短歌大会を開催しています。昨年度は応募総数が一万一千首と、飛躍的に増加しました。特にジュニア部門の増加が目立ちます。これは、関係の皆様から、さまざまな学校にお声がけしていただいた成果だと思っています。子どもたちの応募作品も、すばらしいものが多く、ずっと短歌に親しんでもらい、中にはコスモスに入るような人も出てほしい、などと思ったりしています。

全国短歌大会は今後も、コスモス短歌会の協力を得ながら、発展させていきたいと考えています。これからもよろしくお願いします。

「コスモス」創刊六〇周年記念
「コスモスの歌人たち」展開催

今年は宮柊二創刊の「コスモス」が創刊六〇周年にあたります。今回はその記念として、コスモスの歌人たちを中心に展示を行います。



今年３月に発行された「コスモス」60周年第一記念号。

多くの歌人を輩出した「コスモス」。右から、鈴木英夫、野村清、宮柊二、田谷鋭、葛原繁。

宮柊二の大きな業績の一つに、歌誌「コスモス」の創刊があります。

戦後、宮柊二を中心に三〇〇名の会員が集い、コスモス短歌会が結成されました。昭和二十八年三月に歌誌「コスモス」を創刊。当時としては珍しい二色刷りの表紙など、いくつもの新しい取組がなされ、歌壇から大いに注目されました。

柊二が中心となって、コスモスは着実に歩みを重ね、有数の短歌結社に成長していきます。そこでは、多くの会員が研鑽しあって短歌を学び、多くの歌人が輩出されました。宮柊二が亡くなったのは昭和六十一年十二月のこと。しかし、コスモスは停滞することなく、その後も歩みを続け、今年六〇周年を迎えました。

平成二十五年度は、コスモス創刊六〇周年を記念して企画展示を行い、これまでのコスモスの歩みを多くの皆さんにご紹介したいと考えています。

また、宮柊二記念館で行っている全国短歌大会では、選者のお一人にコスモス短歌会の歌人をお招きしています。今回の展示では、コスモスの歌人たちとして、短歌大会選者の方々を中心にご紹介します。これまでに十八回を数えた短歌大会ですが、コスモス所属の選者の紹介を展示期間の前半と後半の２回に分けて行う予定です。

戦後昭和から今日にいたるまで短歌を語るうえで欠くことのできない歌誌「コスモス」。宮柊二がどのように生み出し、柊二と会員たちがどのように育み、引き継いでいったのか、その歴史の一端に迫っていきたい、と考えています。

平成二十五年度
宮柊二記念館 事業計画

今年は、コスモス創刊六〇周年を記念し、コスモス短歌会に協力して事業を展開します。

◎平成二十五年度　企画展示

・テーマ　「コスモスの歌人たち」
・期　間　五月二十五日(土)～

◎第19回全国短歌大会

・募集開始　五月一日
・締　　切
　一般の部　七月三十一日
　ジュニアの部　九月十日
・選　者　歌人・佐藤通雅先生（路上）
　歌人・福士りか先生
　（コスモス短歌会）
・内　容　作品は二首　一、〇〇〇円。
　海外からの応募、ジュニア部門（高校生以下）は無料。

【短歌大会】

・日　時　十一月十七日(日)
　十二時三〇分～
・会　場　堀之内公民館
　（魚沼市堀之内一三〇）

この他にも、「記念館短歌教室」や「ジュニア短歌教室」など様々な事業を企画し、宮柊二記念館の普及に努めていきます。

平成24年度事業の報告

平成24年度は、宮柊二記念館の開館20周年と宮柊二生誕100年が重なりました。

宮柊二記念館の来館者も887人と昨年度より増加しました。また、第18回短歌大会はジュニア部門で応募者を伸ばし、前年度より多い5,775人からの応募がありました。

昨年度からはじめたジュニア短歌教室には12人の参加があり、今後の発展が期待できると感じました。

その他、年９回の短歌教室、７月と１月の短歌セミナー、名筆展として「文人歌人名筆展」、サロンコンサートなどを実施しました。

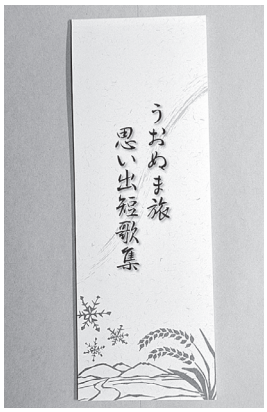
24年度後期事業

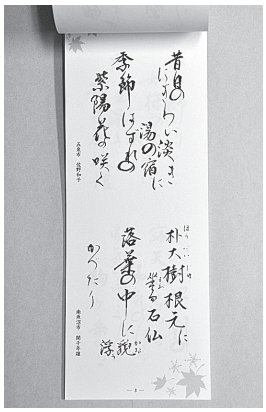
「師匠と弟子」をテーマに 第２回短歌セミナー

積雪計が２メートルを表示しようとする１月20日。午後１時から当館第一展示室において、平成24年度第二回目の短歌セミナーを開催しました。

講師として、長岡市在住でコスモス選者をお勤めの田宮朋子先生をお迎えし、「師匠と弟子」をテーマに進められました。今回の講座は、厳しい寒さの中にもかかわらず30名を超す参加があり、展示資料に囲まれたなかで進行されました。静かに話される講師と参加者の真剣なまなざしが印象的でした。

第１回「うおぬまたび思い出短歌」





魚沼市観光協会、魚沼市雇用創出推進協議会主催の「うおぬま旅思い出短歌」が実施され、宮柊二記念館も後援させていただきました。

はじめてのことでもあり、応募作品数は40点あまりにとどまりましたが、この地域を旅して詠んだ歌や地域の良さをうたったものなど、応募作品のいずれからも「魚沼の香り」があふれるものが寄せられました。

魚沼市雇用創出推進協議会では、平成25年度も第２回目として実施するべく、募集を開始したとのことです。

新資料紹介

平成24年度も貴重な資料を寄贈いただきました。深く感謝申し上げます。今後も大切に保存させていただきます。

優佳良織のジャケットとスラックス

コスモス歌人・影山一男さんが、柊二の遺品として英子夫人から授かり、とても大切にされていた記念の品です。優佳良織は北海道を代表する染織工芸で、柊二がとても好んだものです。

名筆展実行委員会を中心に 第十七回名筆展開催

平成24年10月６日から21日まで、当館二階、研究室を会場に開催された第17回名筆展は、期間中に新潟市でコスモス全国大会が開催されたことも重なって、おいでになった方は130名となり、入館者増に大きく貢献しました。

同展実行委員会では、平成25年度においてもさらなる充実した事業実施に向け、準備を進めているとのことです。

報告

第十八回宮柊二記念館全国短歌大会

一一，〇〇〇首の応募

【一般の部】

○最優秀賞

一瞬に交尾終へたる二羽のハト神事の如しあと別れゆく　河野　敏夫

○選者賞（今野寿美 選）

淋しいと寂しは違ふかもしれぬ地図にない道あかまんま咲く　滝沢三枝子

○選者賞（武田弘之 選）

麻酔よりさめゆく中に息子らのささやきを聞くわれは生きたり　渡辺正一郎

【ジュニア部門（小学生の部）】

○最優秀賞

秋の空真っ赤な夕日しずむまで遠くを見つめるわたしの時間　五十嵐友香

○選者賞（今野寿美 選）

ドラえもんべんりなどうぐだしすぎてのびたはなにもできなくなった　たかのきょうい

○選者賞（武田弘之 選）

すいえいでけのび5メートルがんばったつぎはバタあしできるといいな　阿達　美月

【ジュニア部門（中学生の部）】

○選者賞（今野寿美 選）

コンパスで描いたような〇を描く手塚治虫はとてつもない人　椎葉菜々恵

○選者賞（武田弘之 選）

広すぎるひまわり畑の真ん中の笑顔の君が夏の思い出　佐藤　洋

【ジュニア部門（高校生の部）】

○選者賞（今野寿美 選）

東京に下町残る梅屋敷漕いだ疲れを癒す町並　小川　剛史

○選者賞（武田弘之 選）

練習後部屋から見える夕やけを黙って見ている君も真っ赤だ　木暮　恵子

昨年の第十八回全国短歌大会は、選者に今野寿美先生（りとむ短歌会）、武田弘之先生（コスモス短歌会）をお迎えし、前年の八，三五八首を大きく上回る一一，〇〇〇首が寄せられました。

一般部門の応募作品数も増加しましたが、ジュニア部門、特に高校生の部が増加しました。これには、県外からも多くの高校で取り組んでいただいた結果といえます。

平成二十四年十一月十八日には、堀之内公民館を会場にして、盛大な大会が開催されました。会場に集まった約三百人の参加者の中には、すぐ隣の宮柊二記念館を訪れてくださった方もたくさんいました。

第十九回となる今年は、選者に佐藤通雅先生（路上）、福士りか先生（コスモス短歌会）をお招きして行います。一般の部は七月三〇日、ジュニア部門は九月一〇日が締め切りとなっています。大勢の方からふるって参加していただきたいと思います。

第18回　短歌大会　応募状況

区　分	応募作品数	応募者数
一般の部	860首	364人
ジュニアの部	10,140首	5,411人
（小学生）	2,373首	1,253人
（中学生）	3,299首	1,813人
（高校生）	4,468首	2,345人
総　計	11,000首	5,775人

【選者のことば】

雪国の人びとの気骨

今野寿美

第十八回宮柊二記念館全国短歌大会に寄せられた全作品を拝読しました。一般部門とジュニア部門、つい興に乗ってその総数を出してみましたら、ちょうど一万一千首。こんなにきれいに端数がない数であることに驚嘆してしまいました。もちろん、これだけたくさんの応募があることは、この短歌大会への関心の高さを示しているでしょうし、全体の出来栄えにも反映されていたと思います。たいへん読み応えがありました。

全国規模の短歌大会ですから、特に地域性が感じられるわけではなく、もとより無記名の詠草を読みつぐ限りにおいては、土地柄や風土を特定できる例も多くはないのですが、それでも、山野の風景や農地の伝統、風習などが見えてくる歌には、なんとなく心惹かれてしまうものです。ことに雪深い地に生きるがゆえの気骨が伝わるような歌には、文句なしに感じ入って浸りました。

何をうたうにしても、作者自身の拠って立つところ、それによって育まれた精神の基盤は、どことなくまつわっているのかもしれません。その意味で印象深い作品に出会えたことを嬉しく思っています。

どの短歌大会でもジュニアの作品には関心を持ちつづけております。小学生の部は無邪気で可愛らしく、中学生の部はしばし考えたうえでことばを発している印象でした。高校生の部になると、受験を含めた自分の今後を見据えていたり、初々しい恋心も飛び出したりしています。どの短歌大会でもそうなのですが、今回は、小学生にもうまさが光っていたり、中学生の発言力に感心したりという瞬間が多く、全体の充実感に結びついていたように思います。頼もしいことでした。

―「入選作品集」より再掲

今野寿美

1952年東京生まれ。79年に「午後の章」五十首により角川短歌賞受賞。『世紀末の桃』（第十三回現代短歌女流賞受賞）、『龍笛』（第一回葛原妙子賞受賞）ほか『雪占』まで九冊の歌集がある。和歌の入門エッセイ集『歌がたみ』（平凡社）、児童のための短歌入門書『作ってみよう らくらく短歌』『読んでみよう わくわく短歌』（偕成社）ほか多くの歌書がある。

歌誌「りとむ」編集人。現代歌人協会会員、日本文藝家協会会員。神奈川県川崎市在住。

【選者のことば】

自分自身の生の証明を

武田弘之

ことしは宮柊二先生生誕百年、そして宮柊二記念館開館二十周年の節目に当たります。この記念すべき大切な年に第十八回宮柊二記念館全国短歌大会の選者を務めさせていただき、まことに光栄なことでした。皆さんからの熱心な数多くの作品に接することができ、感激しております。

一般の部では、日常の生活周辺を真摯に見つめ、特に生命のありようをこまやかに観察して詠まれた作品が多く、心ひかれるものがありました。また、東日本大震災ののち一年余を経た今の日本の現状に鋭く切り込んだ作品にも感銘を覚えました。

ジュニア作品にも数多くの作品が寄せられました。おそらく作品数としては今回が最も多かったのではないでしょうか。これは多くの学校の先生がたの熱心なご指導のたまものと思います。

作品内容を見ますと、小学生の部では学校の勉強やスポーツに取り組む若々しい情熱に心打たれました。ういういしく、ほほえましい歌の数々でした。

中学生の部では、学校生活からもう少し視野を広げて、家族との関わり、自然や季節への心寄せ、政治や社会を見つめる目が作品の豊かさを形造っていました。時おり異性へのほのかな恋ごころも詠われた作品も見られ、若いってすばらしいなぁと思わず嘆声を発したものです。

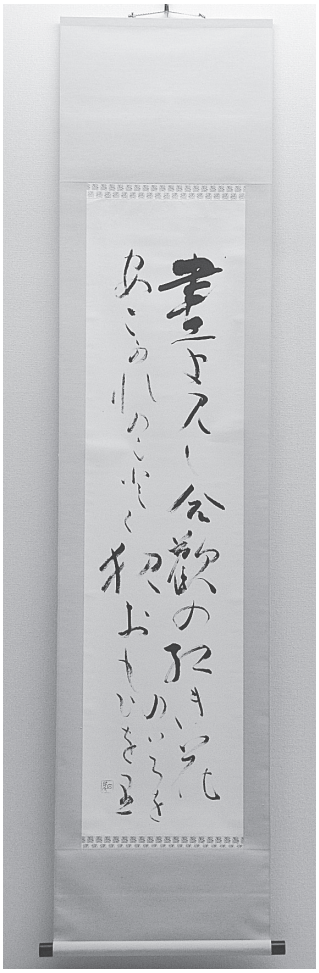
高校生の部では、若い感性がさらに深く鋭く、仲間とのライバル心、時代や社会への批判、家族に寄せる思いとなって作品に反映していました。

宮柊二先生は「作品によって自らの生を証明しよう」と呼びかけられました。宮先生のおっしゃった「生の証明」とは何でしょうか。自らの生を証明するために私たちは歌を作るのではない、と宮先生はおっしゃっています。一生懸命に生き、一生懸命に学び、そして一生懸命に歌を作ること、それが「生の証明」です。私たちはこれからも作品によって生の証明を果たしていきましょう。

―「入選作品集」より再掲

武田弘之

1932年、愛知県岡崎市に生まれる。早稲田大学国文科卒、学習研究社に勤め、教育図書の編集に38年間携わる。1959年、コスモス短歌会に入会、宮柊二に師事。同短歌会の選者・編集委員及び宮柊二記念館運営委員を歴任。日本文藝家協会・現代歌人協会会員。神奈川新聞歌壇・文藝春秋「オール讀物」短歌欄選者。読売文化センター短歌教室講師。日本現代詩歌文学館評議員・神奈川県歌人会委員。



畫ま見し合歓の紅き花
のいろを
あこがれのごとく夜おもひをり

宮柊二記念館収蔵資料紹介　No.39

柊二24歳のころの歌です。美しいネムの花は、昼に会った女性のことをたとえているといわれています。後年、柊二はこの歌を贈ることが多かったようです。そのときは、男女を問わず、お会いできたことへの喜びの意味を込めていたのではないでしょうか。この書は、今年改めて軸装した新資料です。

宮柊二生誕一〇〇年
コスモスの新潟大会

宮柊二の生誕一〇〇年を記念して、コスモス短歌会の全国大会が新潟を会場に開催されました。大会最終日の一〇月十五日には、多くの会員の皆さんが宮柊二記念館においでになり、柊二の遺産一〇〇選を前に、語りあっていました。

生前の柊二を知る方は、いろいろなエピソードを語りあって、ありし日を懐かしんでいました。

「友の会」からのお知らせ

「宮柊二記念館友の会」では会員を募集しています。友の会からは、宮柊二記念館の活動に様々な支援をいただいています。会員には記念館だよりをお届けするほか、企画展や各種事業のご案内をいたします。年会費は一、〇〇〇円です。

詳しいことは、宮柊二記念館にお問い合わせください。

宮柊二記念館だより　第39号
発　行　2013．4．30
問合せ　宮柊二記念館（〒949－7413　新潟県魚沼市堀之内117-6）　TEL･FAX　025－794－3800
メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp　ホームページ http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji